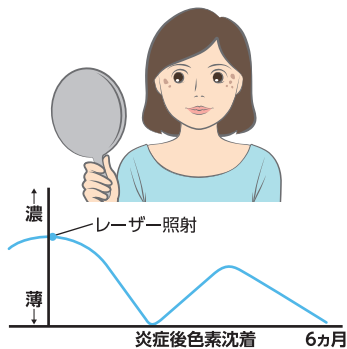


年齢とともに顔にシミが増えて気になります
“老人性色素斑”か判別して治療しましょう
 立川皮膚科クリニック
 www.tachikawa-derma.com

老人性色素斑の症状と治療



鏡を見るたびに気にな
る顔のシミ。歳を重ねる
と増える「老人性色素斑」
の症状について、日本皮
膚科学会認定皮膚科専門
医で、立川皮膚科クリニ
ック院長の伊東秀記先生
に聞きました。

—症状は？
「そばかすのような小
さなものから2〜3cmの
濃い褐色のシミまで、顔

に出ていると言えま
す。また、「老人性」とつ
がる場合はハイドロキノ
ン外用薬（自由診療・20
00円）、トラネキサム
酸内服（自由診療・20
00円）を処方、またはほ
ろレーザーの再照射を行
います。

—原因は？
「日光が長時間当たる
部分にできやすく、若い
頃からの紫外線の影響が
肌に出ていると言えま
す。また、「老人性」とつ
がる場合はハイドロキノ
ン外用薬（自由診療・20
00円）、トラネキサム
酸内服（自由診療・20
00円）を処方、またはほ
ろレーザーの再照射を行
います。

グラブはレーザー照射後に色素沈着で皮膚の色が濃くなった場合の経過です。徐々に落ち着きますが気になる場合は再度、治療します。

え60代ではほとんどの人に見られます」
「治療方法は？
「レーザー照射での治療となります。自由診療で、当院では1㎢3000円で行っています。照射後、一過性の色素沈着が起り、色が濃くなる場合があります。徐々に落ち着きますが、気になる場合はハイドロキノロン外用薬（自由診療・2000円）、トラネキサム酸内服（自由診療・2000円）を処方、またはほろレーザーの再照射を行います。」

なお、「老人性色素斑」に似ている疾患として「基底細胞がん」や「悪性黒色腫（メラノーマ）」があります。疑わしい場合は治療を始める前に皮膚組織の組織検査を行います。老人性色素斑が気になったら、まずは皮膚科の医師に相談を」

院長：伊東秀記
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、東京慈恵会医科大学医学部卒業



休診日：日曜、祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30~ 13:30	○	○	○	○	12:30まで 受け付け	○
15:00~ 19:30	○	○	○	○	18:30まで 受け付け	17:30まで 受け付け

問い合わせ
☎042-843-1377
JR「立川」駅南口徒歩2分